

(様式第4号)

## 協働推進モデル事業計画書（本提案用）

(記載が複数ページにわたっても良いので、できるだけわかりやすく具体的に記載してください。ただし、この企画書はA4サイズ4ページ以内で作成してください。)

提案団体名	団体名	特定非営利活動法人 人・ふれあい・ひろば (担当者 藤井弥生)			
	合同提案団体 (*協議体・実行委員会等で提案される場合は構成団体をすべて記載してください。)				
協働する岡山市の 担当課等と担当者	課名	発達障害者支援センター		電話	086-236-0051
	担当者 2名	職名 氏名	所長 横畑 一	職名 氏名	所長補佐 片山 孝保
提案事業の名称	発達障害等で悩んでいる方に対して、寄り添える人材の養成事業				
提案事業の目的	<p>・発達障害等当事者及びそのご家族の多くの方は、以下のような状況で悩んでいる。 《社会適応不全状況》</p> <p>・自分が置かれている社会環境（友だち・学校・会社等）の中で、他者と調和が取ることができていない状況。</p> <p>・神経症的な症状が現れ、不登校・ひきこもり等が長引いてしまう。 《社会的孤立状況》</p> <p>・経済的に自立できない⇒貧困の原因。</p> <p>・情報化社会の現代では、インターネットを活用し気軽に対人関係を持つことができる為、実社会の中での対人関係を断ち切ってしまう、という状況。</p> <p>上記のような状況を改善する為に、以下の機会を設ける。</p> <p><b>「寄り添える人材の養成講座」の開催</b> 「自分の隣で、常時受け入れ態勢を持って存在する人」として「寄り添える人」と位置付け、この人材を養成する。</p> <p><b>●養成のポイント</b></p> <p>1. 安心感の持てる対応ができる人（相談のノウハウを勉強している） ⇒専門性を持った養成講座（3回）において方法を身に付ける。</p> <p>2. 気持ちの共有・共感ができる人（自己のあり方がぶれていない） ⇒聞く・聴く・訊く為の方法を身につける。</p> <p>3 自分の体験も話せる人（何らかの形で発達障害と向き合っている） ⇒自己体験に基づく家庭療育を紹介する為の方法を身につける。</p>				

	<p>4. 拒否せずまず認める、という『寄り添える人材である意識』を持った人 ⇒発達障害に関わる全ての人々が『寄り添える人材』になりうることを認識する。</p>
<p>解決をはかりたい課題の緊急性・重要性等（市民ニーズ含む）</p> <p>※ニーズ把握等で行った調査資料等がある場合は添付してください。</p>	<p>1. 解決をはかりたい課題と現状</p> <p><b>課題</b> 発達障害等で悩んでいる人に声を掛け、話を聞くことができる人が特定されていない。</p> <p><b>現状</b> 発達障害等で悩んでいる当事者も、育てている家族にも、社会適応不全、社会的孤立状況にある方々が多い。</p> <p>2. 市民ニーズ</p> <p>3. <u>* こういう人が欲しい！（サポートして欲しい）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悩んだその時に、身近で相談できる人が欲しい。</li> <li>・小・中学校での環境設定の為、話し合いを上手に導くことのできる人が欲しい。</li> <li>・障害特性を認識してない方にむけての、意識を変える話ができる人が欲しい。（保護者・教員双方ニーズ）</li> </ul> <p><u>* サポートしたいと思っても行動に移せない！（サポートしたい）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悩んでいる人の話を聞くことができるとしても、言い出せない。</li> <li>・自分の経験を話すことができれば、と想着いても、話しかけにくい。</li> <li>・アドバイスはできそうだけれど、タイミングが難しいと感じる。</li> </ul> <p>4. 課題解決の方策</p> <p><u>* 悩みを身近で話せる環境設定（人・空間・時間）が必要</u></p> <p>⇒サポートのできる人を増やし、居ることを広報する ⇒悩んできた親御さんの中に、すでにサポーターとして発言している方が居る ⇒サポーターとしての意識を持ってもらうことにより、サポート体制を確立する</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;"><b>『寄り添える人材』養成事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートができる環境をつくる。</li> <li>・サポートできる人を増やし、対応可能な状況を広げる。</li> <li>・寄り添える人材としての認識と技術を身に付けてもらう。</li> <li>・自分の経験を、サポートの声掛けに変換できるよう勉強する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><b>* 当法人の現状として平成27年度中に10人程度の養成が可能と考えている。その10人の後進が10人居るとするならば、加速度的な相談場所・人の確保に繋がる。</b></p>

<p>協働の必要性 及び効果と目標  (協働の役割分担を 含む)</p>	<p>1. 協働の必要性和相乗効果</p> <p><b>1) 協働の必要性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養成講座の実施にあたっては、養成後の実践を考へても、当事者・保護者そして専門機関から信頼される講座として開催することが必要であり、協働することで、より質の高い講座が実現でき、それが可能となる。</li> <li>・両者が協働することで、より効果的に「寄り添う」ことのできる人材を発掘することができる。</li> <li>・両者の強みを生かすことができる。</li> </ul> <p>「発達障害者支援センター」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政としての安心感と信頼感、専門機関や他の行政機関等とのネットワーク。</li> <li>・高い専門スタッフの存在。</li> </ul> <p>「NPO 法人人・ふれあい・ひろば」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小回りの効く他団体との連携、年間を通じた市内全域での相談会の開催。</li> <li>・長い相談実績による地域や保護者からの信頼。</li> </ul> <p><b>2) 協働の効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養成講座への信頼度を高め、より多くの受講生の確保ができる。</li> <li>・寄り添うことのできる資質のある人たちを効果的に発掘できる。</li> <li>・年間を通じた継続的な実地トレーニングを伴う養成講座の開催が可能になる。</li> <li>・寄り添える人を増やしていくことで、市内全域での相談会がよりきめ細かく開催できるようになる。</li> </ul> <p>2. 提案団体が果たす役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3回（15時間）の養成講座の企画・運営</li> <li>・相談座談会を開催し、実地トレーニングを行う。</li> <li>・相談座談会のボランティアスタッフの中から支援者となろうとする人を見出していく。</li> <li>・今後継続的に支援者が活用できる手引きの作成。</li> </ul> <p>3. 岡山市の担当課等が果たす役割 市の担当セクション：発達障害者支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害者支援センター専門職員による講座内容等への専門的な指導やアドバイス。</li> <li>・養成講座受講生募集における周知・広報。</li> <li>・専門機関や他の行政機関への働きかけ。</li> <li>・提案団体に対するコンサルテーション等により専門的サポート。</li> <li>・支援者のさらなるステップアップのための研修会の開催。</li> </ul> <p>4. 期待する事業成果・目標値等</p> <p>*事業成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『寄り添える人材』を養成・広報することにより、こころの距離感を感じることなく、身近で相談できる人がいることを周知することにより、<b>早期対応が可能</b>となる。</li> <li>・悩んでいる状況では社会的混乱状況を招いてしまうが、考え・行動できる親となるよう寄り添うことにより、<b>社会状況改善</b>に繋がる。</li> <li>・親がより前向きな気持ちで対応することにより、子どもの安定、学校生活の安定、<b>社会的安定</b>に繋がる。</li> </ul> <p>*目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『寄り添える人材』を輩出するため、一人でも多くの方を育てていく。</li> <li>・養成の為の研修会を開催し、10人程度の『寄り添える人材』養成を目指す。</li> <li>・『寄り添える人材である意識』の社会的広がりを目指す。</li> </ul>
--	--

<p>事業の内容</p>	<p>『寄り添える人材』の養成</p> <p>(1) 養成講座の開催（各 5 時間）</p> <p>5 月 16 日（土曜日）10：00～15：00</p> <p>9 月 19 日（土曜日）10：00～15：00</p> <p>2 月 20 日（土曜日）10：00～15：00</p> <p>(2) 相談座談会を開催し、受講生が現場で体験的に継続的に支援の仕方を学ぶ（OJT）  養成者 1 人につき、1 ヶ月 3 回×10 人×11 か月（5 月から 3 月）  1 回の相談座談会に 6 人程度の受講生が支援者として参加し、その支援の様子を指導者が観察し指導する。</p> <p>(3) 継続的な人材育成ができるようにするため、「寄り添う人のための手引き」3 冊を作成する。</p> <p>内 容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『聞く・聴く・訊く』コミュニケーションの手引き</li> <li>2. 『家庭療育』の為の手引き</li> <li>3. 『相談を受ける』為の手引き</li> </ol>
<p>事業の実施体制</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総括責任者  NPO 法人 人・ふれあい・ひろば 理事長 藤井弥生</li> <li>2. 個別事業責任者  NPO 法人 人・ふれあい・ひろば 理事長 藤井弥生</li> <li>3. 事業実施にあたっての専門性やノウハウ <ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山市発達障害者支援センター ひか☆りんく</li> <li>・専門家を招いての特別枠相談会において研修を重ねる</li> <li>・主たる社員の経歴 <p>藤井 弥生 … 16 年間の発達障害に係る相談会実績  職歴 高校体育教師・中学校図書館司書・岡山市児童クラブ指導員  岡山市主任児童委員理事・岡山県青少年相談員 等  書籍『ぼくの場所』出版  平成 27 年度：岡山県キーパーソン登録</p> <p>山崎久美子 … 岡山県ペアレントメンター（当事者 20 歳）（ほかほか広場ボランティア）  堀越 千恵 … 岡山県ペアレントメンター（当事者 16 歳）  山本 純子 … 岡山県ペアレントメンター（当事者 13 歳）（ほかほか広場ボランティア）  二井 康則 … 岡山県ペアレントメンター（当事者 14 歳）（りぼんの会：瀬戸内市）  （ひだまりカフェ代表）</p> </li> </ul> </li> </ol> <p>* ペアレントメンターとは：発達障害のある子どもを育てる先輩の親で、親の相談役となる人の事。同じような子どもを育ててきた経験や知識や地域の情報を生かして相談相手や地域機関との連携役になります。日本自閉症協会が 2005 年度から養成を続け現在は自治体はその役割を担い始めるようになっていきます。</p>

事業スケジュール	月	実施事業内容
	通年	通年で毎月6回、地域公民館で相談会(受講生のOJT)を実施。
	5月	○第1回『寄り添える人材』養成講座 △相談会の開催
	6月	△相談会の開催
	7月	△相談会の開催
	8月	△相談会の開催
	9月	○第2回『寄り添える人材』養成講座 △相談会の開催
	10月	△相談会の開催
	11月	△相談会の開催
	12月	△相談会の開催
	1月	△相談会の開催 <input type="checkbox"/> 『聞く・聴く・訊く』コミュニケーションの手引き作成 <input type="checkbox"/> 『家庭療育』の為の手引き作成 <input type="checkbox"/> 『相談を受ける』為の手引き作成
	2月	○第3回『寄り添える人材』養成講座 △相談会の開催
	3月	△相談会の開催 ◇まとめ
	実施する上で連携が必要と思われる団体と期待される役割	名称
事業の展望及び今後の活動展開	<input type="checkbox"/> NPOがネットワークを構築し、他団体と連携し実施することを目指す。 <input checked="" type="checkbox"/> 岡山市の一般施策としていくことを期待する。 <input type="checkbox"/> 次年度以後も協働での実施を希望。 <input type="checkbox"/> その他 ( ) <small>具体的な目標(計画)があれば記載してください。</small>	

(様式第5号)

## 協働事業収支予算書

<b>提案事業名</b>	発達障害等で悩んでいる方に対して、寄り添える人材の養成事業
--------------	-------------------------------

<収 入>

費 目		金 額	内 訳
自己資金等	申請団体 自己資金	149,400	会費収入など
	合同提案団 体負担金等		
自己資金等合計(a)		149,400	
事業 収 入 見 込	事業収入	90,000	受講料 9,000*10人
	その他		
事業収入見込合計(b)		90,000	
岡山市補助金申請額(c)		953,000	
収入合計(c)=(a)+(b)+(c)		1,192,400	

<支 出>

費 目		金 額	内 訳
事業 実施 経費	講師謝礼金	90,000	講座講師：30,000円×3回=90,000円
	報酬	620,400	★OJT 指導者報酬 (1日2人体制/1か月に6日の相談会の中で個別指導) 時給1,000円×3時間×6日×11か月×2人 =396,000円 ★事務日当(OJT1回につき前後に2時間づつ) OJT記録、まとめ、資料準備 時給850円×4時間×6日×11か月 =224,400円
	交通費	132,000	★OJT 指導者交通費 1回1000円×6日×11か月×2人 =132,000円
	通信費	220,000	携帯2台代金 月20,000×11ヵ月
	印刷製本費	80,000	手引き作成：30ページ×50冊程度×3種類
	消耗品費	50,000	専門書籍(受講生の資料として) タブレット(3万円以下のもの) コピー用紙など
事業実施経費合計(d)		1,192,400	
管理 経費 運 営			
管理運営費合計(e)		0	
総事業費(f)=(d)+(e)		1,192,400	※収入合計(c)と同額

(添付書類等) 1. 人件費等については、積算の根拠(これまでの実績や独自の単価表)を添付すること

3. 参加料などの事業収入を見込む場合は「収入見込み」欄に計上すること